

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2004(平成16)年10月15日 第380号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03(3269)1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

第32回日本マス・スクリーニング学会が開催

タンデム質量分析計によるスクリーニングや、 新生児聴覚スクリーニングなど 新たな技法によるスクリーニングが報告

わが国で新生児を対象に、フェニルケトン尿症(PKU)や先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)などの先天代謝異常症の早期発見と治療を目的とした公費によるスクリーニング検査が全国的に実施されてから、今年で28年目を迎える。この事業が開始されて間もなく発見され、適切に治療されてきた患者はすでに社会人となり、女性患者の中には結婚して子どもを産んでいる人も出てきている。この新生児マス・スクリーニングが、対象疾患の治療開始が遅れて障害児になるのを効果的に予防できたのは、全国的に精度の高いスクリーニング検査が行われ、早期発見された患者が適切に治療されたからであり、それらについての知識の普及、検査技術の向上などの研鑽の場として、日本マス・スクリーニング学会が果たした役割は大きい。



先ごろ仙台市で第32回学会(会長・大浦敏博東北大学大学院助教授「写真」)が開催されたのを機に、検査技術やPKUの治療の向上に深く関わってきた大和田操女子栄養大学教授に、今回の学会のトピックスを解説していただいた。

この学会は1973年に代謝異常スクリーニング研究会として発足した。76年に研究会会報の第1号が発行され、その誌上でPKUのスクリーニング法を開発したガスリー教授が、その方法と米国でのスクリーニングシステムの構築について概説している。しかし米国では、これまで世界中で使用されてきたガスリー法がすでに過去のものになりつつあり、PKUなどのアミノ酸代謝異常症ばかりでなく、20種類以上に及ぶ有機酸・脂肪酸代謝異常症を迅速に早期発見できるタン

デム質量分析計による新生児スクリーニングが、これに替わろうとしている。今回の学会では、メイヨークリニック生化学・遺伝検査センターのピエロ・リナルド博士が、米国35州で実施されているタンデム質量分析計を用いるスクリーニングの成績を報告した。講演後、学会会員との間で活発な討論が行われ、今後わが国でこのシステムを導入する場合に、大変参考になる講演であった。重松陽介福井大学教授は以前からこの分野の研究を進めており、この方法による新生児スクリーニングのパイロット

トスタディの成績を報告し、広島大学院の但馬剛医師らは広島県における5年間のスクリーニング経験を報告した。わが国でタンデム質量分析計を用いた新生児スクリーニングをどのように展開していくか、その領域を専門とする研究者の活躍が期待される。他方、今回の学会では、PKU患者が自己採血したる紙血液を検査センターに郵送して血中フェニルアラニン濃度を測定し、治療をモニターすることの有効性や、長期治療の良否とIQ、脳波、脳のMRI所見との関係など臨床に関する演題が多く見られた。

またシンポジウムでは、クレチン症マス・スクリーニングの到達点と今後の課題が討議された。20数年にわたって早期発見・治療されてきたクレチン症についても、遺伝学の立場や、検査、治療の立場から、新しい研究が進められていることが紹介された。

さらに、マス・スクリーニングで2番目に多く発見される先天代謝異常症について、藤枝憲一旭川医大教授による遺伝、診断、治療のランチョンセミナーがあり、また診断についての話題が、技術者懇談会のテーマとして取り上げられた。



本会でも2001年からタンデム質量分析計を導入して、新たな代謝疾患のスクリーニングを試みている。



● 今月の主な紙面 ●

- 1面 第32回日本マス・スクリーニング学会が開催
- 2面 特集1「食育を考える 職域へのメッセージ」
- 3面 連載「健康教育放浪記」第6回
健康づくり・健康増進を支援するページ 第13回
- 4面 特集2「シンポジウム 転換期のがん検診」
新連載「『いびき』よもやま話」第1回
- 5面 特集2「シンポジウム 転換期のがん検診」
連載「産業医訪問」第60回
- 6面 健康づくり懇話会総会が開催
新刊紹介「『がんは予防できる』『がんになる人ならない人』お知らせ

さらに、マス・スクリーニングで2番目に多く発見される先天代謝異常症について、藤枝憲一旭川医大教授による遺伝、診断、治療のランチョンセミナーがあり、また診断についての話題が、技術者懇談会のテーマとして取り上げられた。

また、特別講演として松原洋一東北大学大学院教授は、ポストゲノム時代のマス・スクリーニングを、林邦彦群馬大学教授が全国乳児を対象とした神経芽細胞腫死亡における受検、未受検の比較研究を報告したが、いずれも興味深い講演であり、マス・スクリーニングに関わる医師、検査技師らにとって教えられることが多かった。

東京都予防医学協会
ホームページニュース

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

「子宮がん検診」の更新を行いました。その他の事業についても順次更新しています。学校保健セミナーやヘルスケア研修会のお知らせを随時掲載しています。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

コンサルテーションのご案内

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 11月 3日 祝日につき休み | 12月 1日 岡 惺治 |
| 10日 岡 惺治(健康管理コンサルタント) | 8日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長) |
| 17日 岡 惺治 | 15日 岡 惺治 |
| 24日 第198回ヘルスケア研修会につき休み | 22日以降1月まで冬休み |

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1131

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会